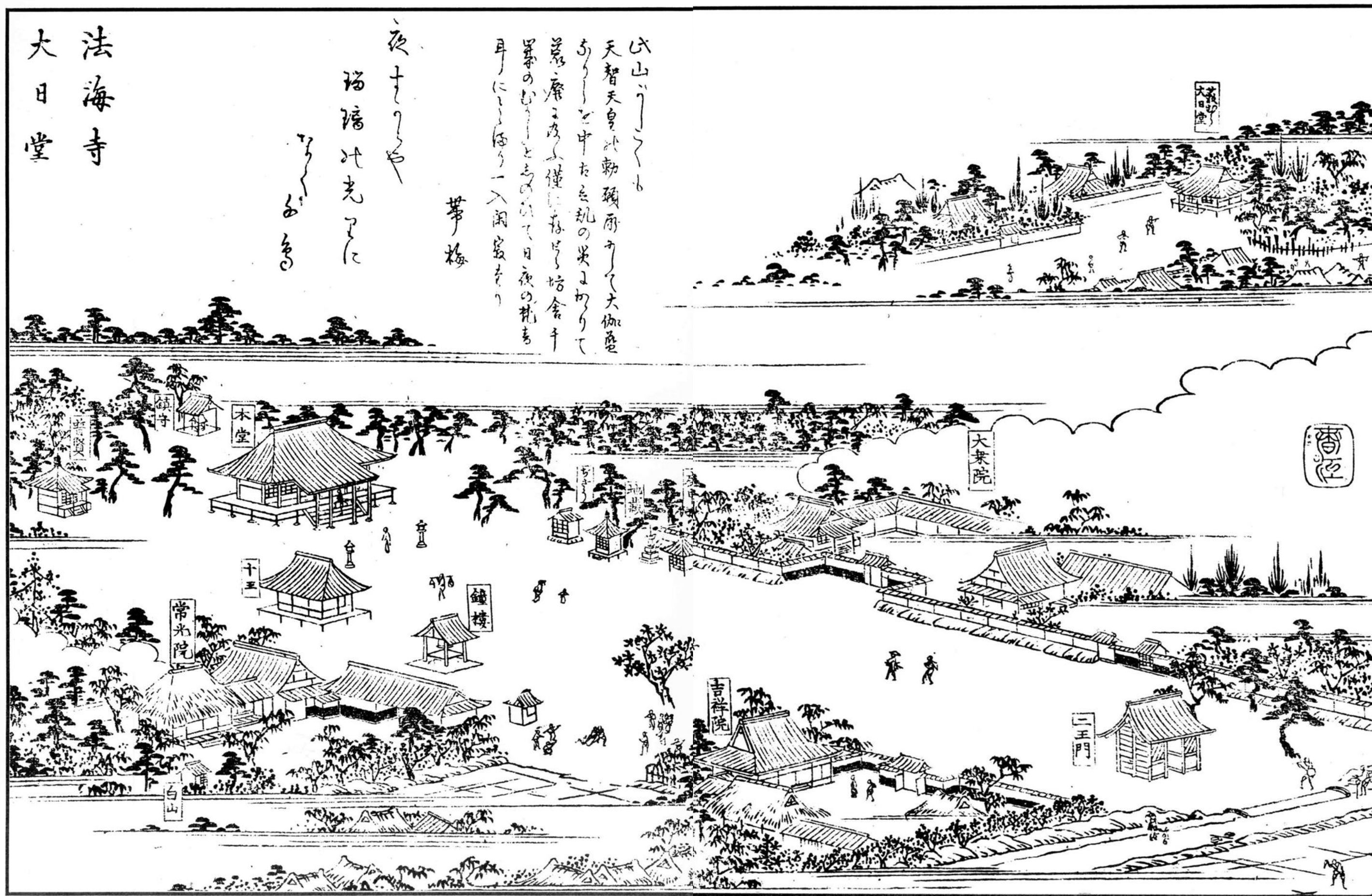




尾張名所圖會(法海寺全景)〈天保年間(1830~1843)〉

「国立国会図書館デジタルコレクションより」

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/764885/65>

藥王山法海寺花王院

同村にあり天合宗
也田密院未

人皇三十九代 天智天

皇神臨幸時

勅詔ありて新羅の沙門道行春日

明神へ祈誓せし小僧神童男と認め自ら法海童子と

稱し其木と云ふ某師の肖像と彫刻し給ひ刻道行小僧と

一紙て肖像共に先明と放ちてせういぬけ時神速小平愈々

けとば是より天智七年戊辰あると奉創し其の彼某師

の肖像と本より刻 勅使と山号寺号れ 勅額と

其の勅額初めと并山と又山階清水とありと改め

寺本のたよりし牧多れ田園と下賜り夫より 天武持

統の西帝と初より十三代の 帝王まで 國家法護の勅然

所より歴然ありある二世と勤操初め三世と弘法大師

より當年伽藍堂塔の盛なりハ悉く大師の撰り儀

軌いんより人々事記けに減り○寺宝 大日如來

弘法大師の
師の山越の阿弥陀 惠心傍
師の當山儀軌 弘法大
師の法海寺謠本 信
公

宅磨法眼
業賀涅槃像 土佐お燈
光信不動明王 巨勢金
目の藥師如來 北殿
司三千佛

顔輝以外希代の什宝數十種あれどもくに有きぬ○常光

院 文禄二年景原
法下の中興大乗院 文禄三年澄永
法下の中興吉祥院 安永元年祐運
法下の中興三

院皆某王山と通称と○牛若辨慶の繪馬二枚 安永十八年癸丑
卯月三日知多郡

寺本中島村に依後
源にあり何津股野角力の繪馬一枚 元和三年己二月
吉祥日にあり

「尾張名所圖會」

やくおうざんほうかいじけおういん おなじむら
藥王山法海寺花王院 同村にあり。天台宗、野田密藏院末。人皇三十九代 天智
ごなう
天皇御悩ましまし時、勅詔によつて、新羅の沙門道行、春日明神へ祈誓せしに、明
をぐな ほふかい
神童男と現じ、自ら法海童子と稱し、靈木を以て藥師の尊像を彫刻し給ひ、則道行
やが
に授與し、頓て佛像と共に、光明を放ちうせ給ひぬ。此時御悩速に平愈ましましけれ
つちのえたつ どうじ
ば、是によつて天智七年 戊辰、當寺を草創し玉ひ、彼藥師の靈像を本尊とし、則
かの すなはち
勅使を以て山號・寺號の勅額を下し給ひ、勤尊和尚を開山とす。又山階清水岡といひ
あまた
しを改めて、寺本の庄と號し、數多の田園をも下し賜り、夫より天武・持統の兩帝を
そのち
はじめ、其後十三代の帝王まで、國家鎮護の勅願所なる事歴然たり。當寺二世を勤操
そのかみ
和尚、三世を弘法大師とす。當年伽藍堂塔の盛なる事は、悉く大師の撰ばれし「儀軌」
ぎき
に見えたり。今事繁ければここに洩しつ。(後略)
いまことしげ もら